

仲間と掴んだ全国優勝と得点王



栃木県で開催されたJ F A第29回全日本U-15フットサル選手権大会において優勝した翼SCレインボー垂井の伊藤真白選手が2月6日(火)に川地憲元町長を訪問し、その報告をしました。

川地町長は「東海大会の決勝で敗れたチームに全国大会の決勝でリベンジを果たしての優勝、本当にお見事です。前回話してくれた優勝の目標を達成されたことをとても嬉しく思います」と喜び、伊藤選手は「この大会での優勝を目指してやってきました。決勝が東海大会のリベンジとなったので力が入りました。自分のできる100点満点のプレーで、得点王になることもできました。この経験を活かし、今後もサッカーとフットサルを続けていきたいです」と話しました。

家族の絆と愛を詩に

「親孝行と生涯学習を進めるまち養老」推進大会
「家族の絆 愛の詩」発表会



1月21日(日)に町民会館にて「親孝行と生涯学習を進めるまち養老」推進大会と「家族の絆 愛の詩」発表会が開催されました。地域の発展に尽力いただいた人および団体を表彰し、「家族の絆 愛の詩」において入賞した作品の発表会が行われました。一般の部は、母親の葬儀であった親戚の子どもたちとの心温まるやりとりを題材にした渡会環さんの「おりがみの手紙」が、小中学生の部は、弱っているクマゼミの幼虫を拾い、世話をしたことで家族や命のかけがえのなさを実感したことをつづった田中海翔さんの「クマゼミのクミ」(広報養老2月号に掲載)が最優秀賞に選ばれました。

絵やモノを使ってコミュニケーションを



絵本を使って子どもとコミュニケーションをとるなるかわしんごさん(写真左)

2月8日(木)に町中央公民館にて子ども家庭総合支援拠点事業の一環として、絵本作家のなるかわしんごさんを講師として迎え、ワークショップが開催されました。3歳までの子どもとその保護者が参加し、なるかわさんの絵本に絵を描いたり、おりがみを使って遊んだりして楽しい時間を過ごしました。参加者は「先生がとても優しく、子どもたちがのびのびと遊んでいました」「家よりも夢中になって楽しそうに遊んでいました。また参加したいです」「年齢ごとの子どもとの接し方について学びました」と感想を話し、それぞれに意味のある時間としていました。

環境美化優良校として 全国で選ばれた38校のひとつに



上多度小学校児童会が主体となり、PTAや自治町民会議をはじめとした地域と協力して取り組んできた「アルミ缶回収」の実績が認められ、公益社団法人食品容器環境美化協会から環境美化教育優良校として選ばれたため、2月5日(月)に表彰式が行われ、同協会の岐阜県担当である伊藤良三さんから賞状が授与されました。

この取り組みは、日常生活の中でみんなの役に立ち、学校や地域のためとなる活動を考え、児童会が主体となって推進してきました。令和3年からスタートし、3年を迎えましたが、これから先も地域とを共有し、活動を継続していきます。